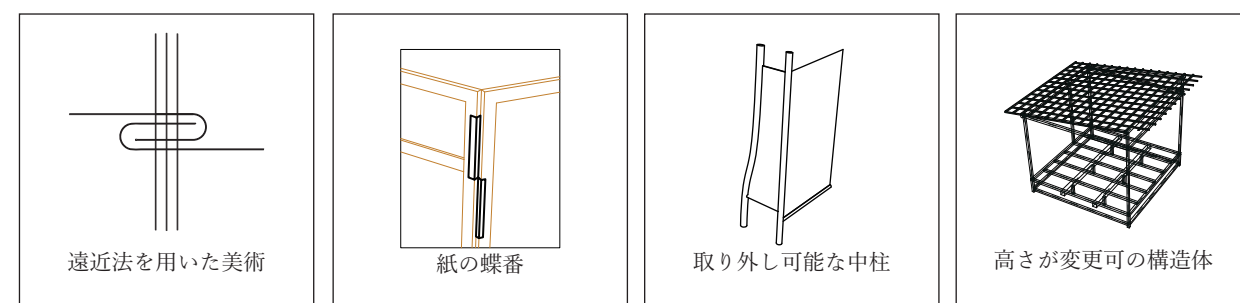
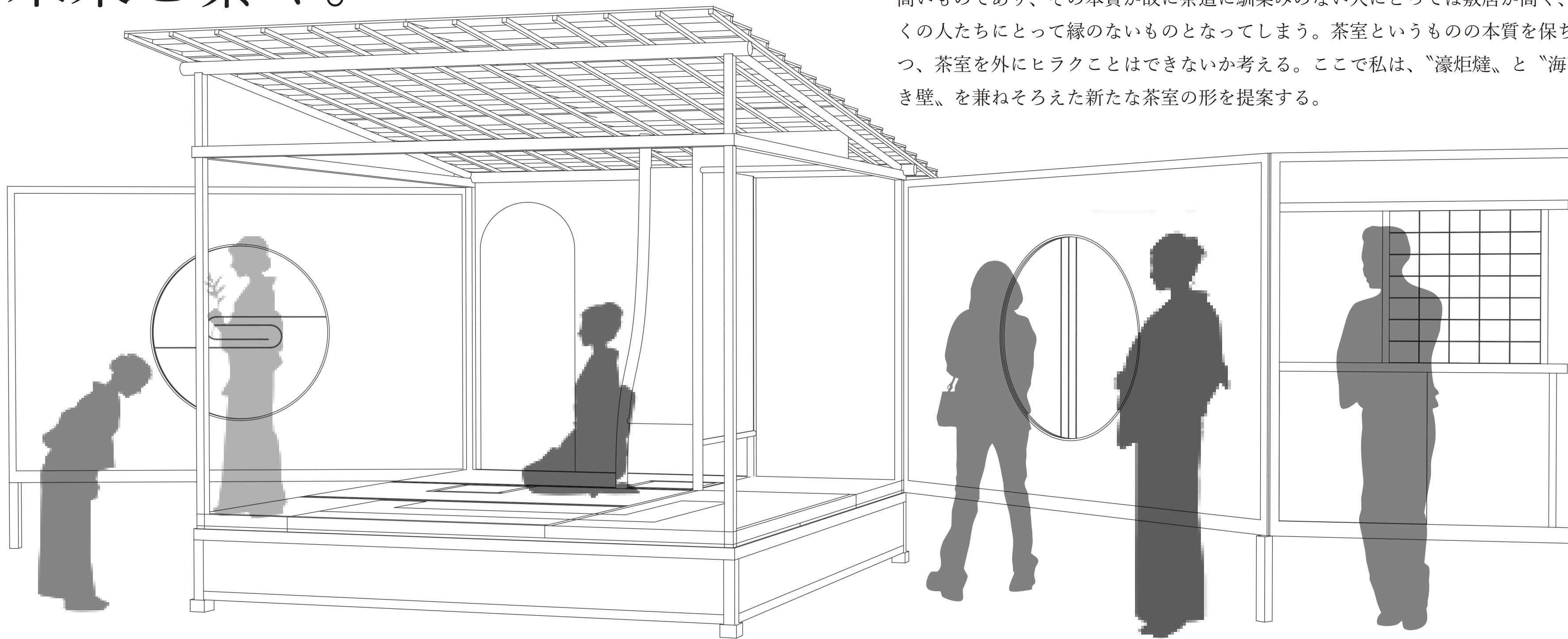


未来と繋ぐ。

茶室は、茶道と人とを最も直接的に繋ぐ役割を担っていると思う。茶道は格式高いものであり、その本質が故に茶道に馴染みのない人にとっては敷居が高く、多くの人たちにとって縁のないものになってしまう。茶室というものの本質を保ちつつ、茶室を外にヒラクことはできないか考える。ここで私は、“豪炬燵”と“海苔巻き壁”、を兼ねそろえた新たな茶室の形を提案する。



平面図 S=1:20

design 01. 豪炬燵



正座が苦手な人が、立礼でない茶席も楽しめる。

design 02. 海苔巻壁

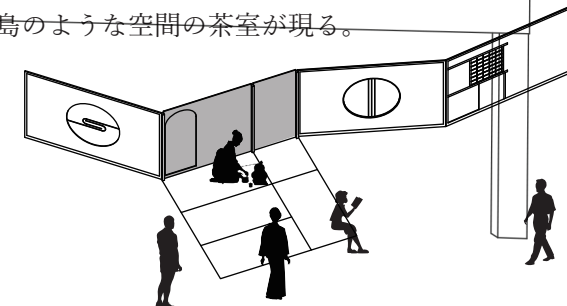
01. 本来の密封された薄暗い空間にて本式を貫く。

FIXED

02. 茶道のお点前が、そのまま舞台となる。

03. 半屋外空間を創る。

04. 孤島のような空間の茶室が現る。



1. 勝手口

固定された壁の表側には、簡易的な水屋を設けることを想定し、その連結口として勝手口を設けている。

2. 炉

図面で示した様に2か所設ける。大引にひっかけることで構造上の安全性を図る。

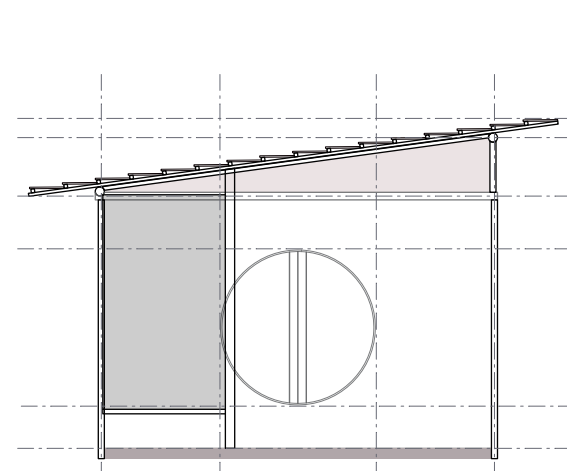
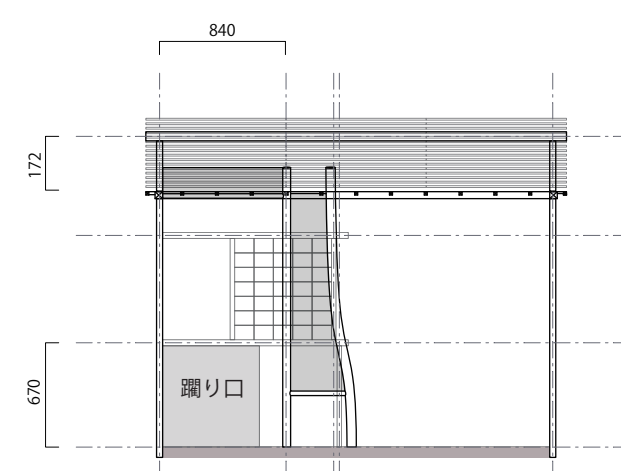
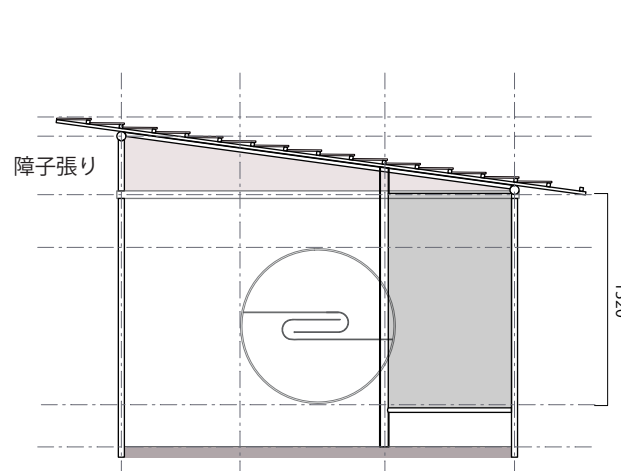
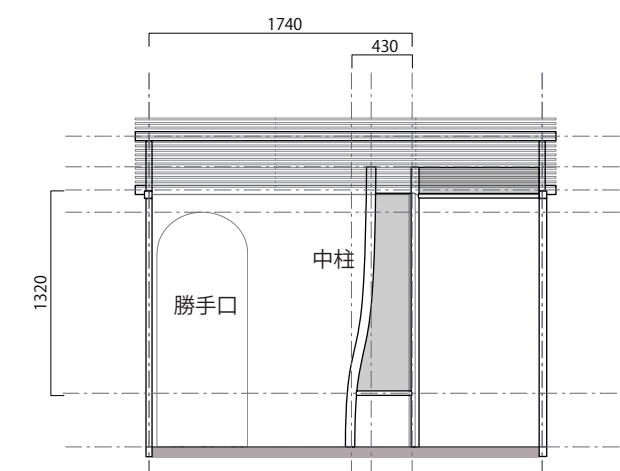
3. 畳

畳を平面図のようにこの字に切り取る。正座に対する抵抗が緩和され、様々なお点前を座った状態で体験することができる。点前をする側ともてなされる側の目線の高さを等しく保ち、掛け軸の高さの調整も不要。

4. 窓

東西2面の向かい合う壁には円形窓を設ける。茶室の外から窓正面を覗き込めば、窓に施された二つの装飾があらゆる角度で重なり合う。内から外を見れば窓はその場所場所の特別な風景を切り取る。屏風の柄は、まさにその借景を用いて実現する。

展開図 S=1:50



立面図 S=1:50

